



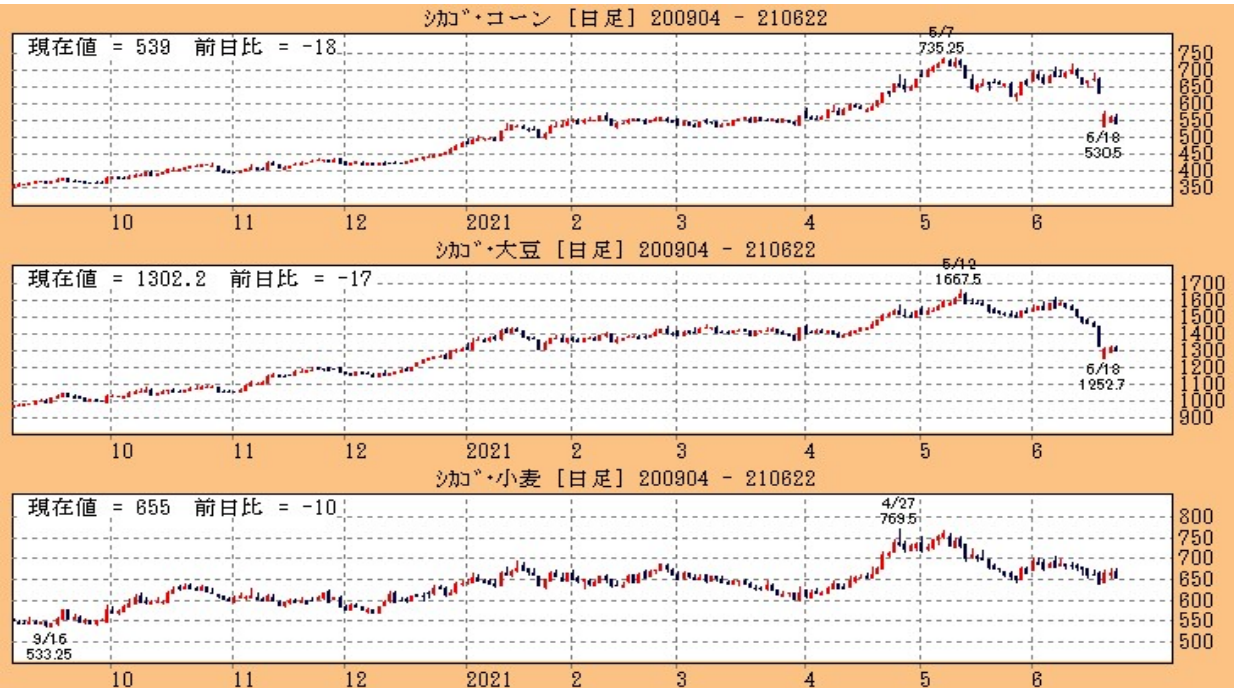
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜夕方発行

トウモロコシは反発、大豆は続落

発行日 : 2021/6/23



15日のシカゴトウモロコシ7月限は前日比+8.25セント高の667.50セントと反発。取引レンジは646.75~668.50セント。新穀12月限は▲7.50セント安の573.75セント。新穀12月限の大幅続落に追隨して、期近7月限も大幅続落する場面もあったが、旧穀の供給逼迫（ひっばく）を背景に反発した。一方、新穀12月限は前日の日中取引終了後に発表された作柄報告で、作柄状況は優と良が68%と事前予想を下回ったことを受け、時間外取引で買いが先行したものの、その後は、米産地で降雨や気温低下が予想されていることから売りが優勢となった。シカゴ取引時間で一時は6月3日以来の安値となる561セントまで下落した。

15日のシカゴ大豆7月限は前日比▲6.50セント安の1465.75セントと5営業日続落。取引レンジは1460.00セント~1488.25セント。新穀11月限は▲21.75セント安の1373.50セント。米産地の高温乾燥懸念が和らいだことと生産見通しが上向くとの見方から売りが先行した。米油実加工業者協会（NOPA）が発表した大豆圧砕高が市場予想を下回ったことも圧迫要因となった。新穀11月限は一時1365セントと5月27日以来の水準まで下落した。その後は買い戻されたものの、戻りは鈍く安値に近い水準のまま取引を終えた。

TOPICs Crop Progress

大豆		18州	
Planted (作付)	前年度	2020年度	過去5年平均
4月18日	2%	3%	2%
4月25日	7%	8%	5%
5月2日	21%	24%	11%
5月9日	36%	42%	22%
5月16日	51%	61%	37%
5月23日	63%	75%	54%
5月30日	74%	84%	67%
6月6日	84%	90%	79%
6月13日	92%	94%	88%
6月20日	96%	97%	94%

大豆		18州	
Emerged (発芽)	前年度	2020年度	過去5年平均
5月9日	6%	10%	4%
5月16日	16%	20%	12%
5月23日	33%	41%	25%
5月30日	50%	62%	42%
6月6日	66%	76%	59%
6月13日	79%	86%	74%
6月20日	88%	91%	85%

大豆		18州	
Blooming	前年度	2020年度	過去5年平均
6月20日	5%	5%	5%



トウモロコシ							大豆						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良	作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
5月30日	1%	2%	20%	62%	14%	76%	6月6日	1%	5%	27%	57%	10%	67%
6月6日	1%	4%	23%	58%	14%	72%	6月13日	2%	6%	30%	53%	9%	62%
6月13日	1%	4%	27%	56%	12%	68%	6月20日	2%	7%	31%	51%	9%	60%
6月20日	1%	5%	29%	54%	11%	65%	前年度	1%	4%	25%	58%	12%	70%
前年度	1%	4%	23%	57%	15%	72%							

冬小麦			18州
Headed	前年度	2020年度	過去5年平均
4月4日	3%	4%	3%
4月11日	6%	5%	7%
4月18日	13%	10%	14%
4月25日	20%	17%	23%
5月2日	30%	27%	34%
5月9日	42%	38%	46%
5月16日	54%	53%	58%
5月23日	66%	67%	69%
5月30日	76%	79%	78%
6月6日	84%	85%	86%
6月13日	90%	92%	92%
6月20日	96%	95%	96%

冬小麦						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
4月11日	6%	11%	30%	46%	7%	53%
4月18日	6%	11%	30%	46%	7%	53%
4月25日	6%	13%	32%	43%	6%	49%
5月2日	6%	13%	33%	42%	6%	48%
5月9日	5%	13%	33%	42%	7%	49%
5月16日	6%	13%	33%	41%	7%	48%
5月23日	5%	13%	35%	41%	7%	48%
5月30日	6%	13%	33%	40%	8%	48%
6月6日	6%	13%	32%	42%	8%	50%
6月13日	6%	14%	32%	40%	8%	48%
6月20日	6%	14%	31%	41%	8%	49%
前年度	5%	12%	31%	43%	9%	52%

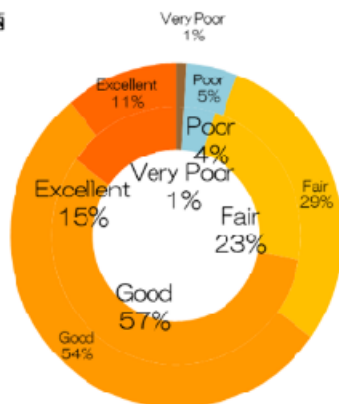
冬小麦			6州
Harvested (収穫)	前年度	2020年度	過去5年平均
6月6日	6%	2%	7%
6月13日	14%	4%	15%
6月20日	27%	17%	26%

春小麦						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
5月30日	4%	16%	37%	39%	4%	43%
6月6日	9%	16%	37%	35%	3%	38%
6月13日	9%	18%	36%	34%	3%	37%
6月20日	15%	22%	36%	25%	2%	27%
前年度	1%	3%	21%	68%	7%	75%

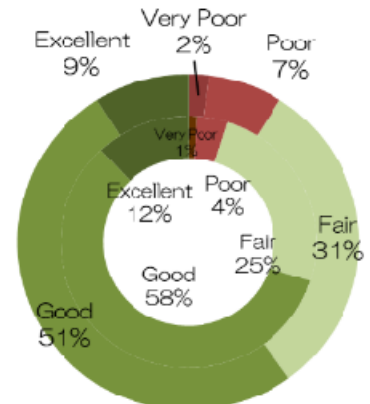
春小麦			6州
Headed	前年度	2020年度	過去5年平均
6月13日	4%	8%	6%
6月20日	11%	27%	18%

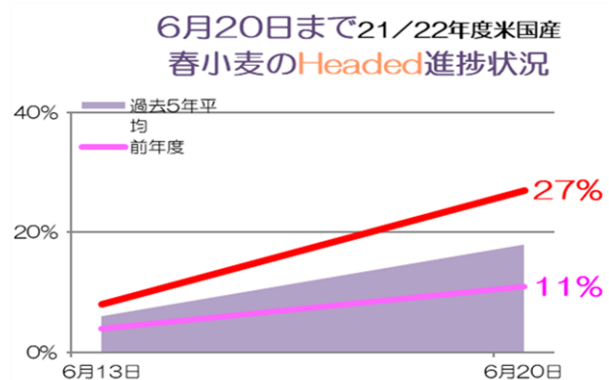
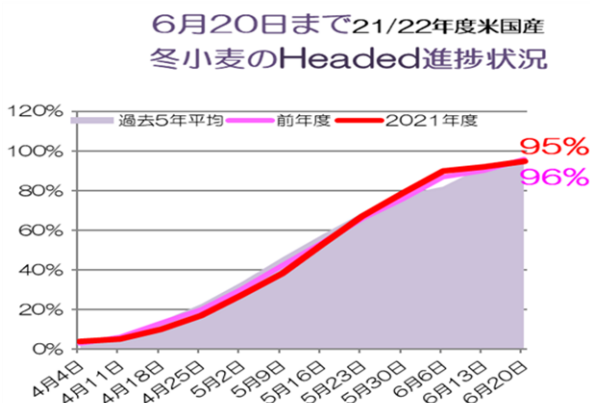
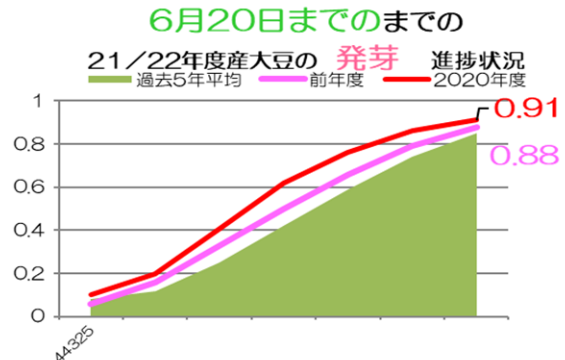
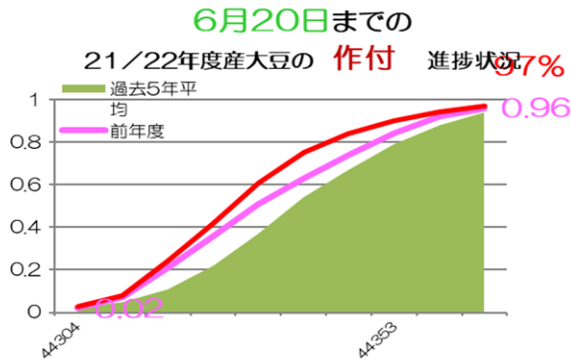
6月20日までの週の米国のトウモロコシの作柄は優と良が65%で前年の72%より悪い。大豆の作柄は優と良が60%で前年の70%より悪い。冬小麦はHeadedが95%完了で例年並み、収穫は17%完了、前年の26%より遅れている。春小麦のHeadedは27%完了。作柄は優と良が27%で前年の75%よりかなり悪く、不作と言える。

トウモロコシの作柄
(6月20日)
外側は2021年
内側は2020年



大豆の作柄
(6月20日)
外側は2021年
内側は2020年





TOPICs ロシアのトウモロコシ by USDA Gain Report 5月21日

千トン	ロシアのトウモロコシ							
	14/15年度 2014年7月	15/16年度 2015年7月	16/17年度 2016年7月	17/18年度 2017年7月	18/19年度 2018年7月	19/20年度 2019年10月	20/21年度 2019年10月	21/22年度 2019年10月
収穫面積	2,596	2,671	2,800	2,694	2,400	2,586	2,731	2,850
期初在庫	290	348	160	779	438	377	826	566
生産	11,325	13,168	14,500	13,212	11,415	14,275	13,500	14,300
輸入	46	44	50	47	25	50	40	40
供給合計	11,661	13,560	14,719	14,038	11,878	14,702	14,366	14,906
輸出	3,213	4,691	5,300	5,500	2,878	2,876	2,900	3,000
飼料用消費	7,200	7,800	8,100	7,250	7,700	10,000	9,800	10,000
食料用消費	900	900	900	850	950	826	1,100	1,200
国内需要合計	8,100	8,700	9,000	8,100	8,650	11,000	10,900	11,200
期末在庫	348	169	419	438	350	650	566	706
消費合計	11,661	13,560	14,719	14,038	11,878	13,390	14,366	14,906
単収				4.9042	4.7563	5.5201	4.8430	5.0175

ロシアのトウモロコシ生産量

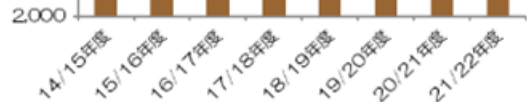
Rosstatによると、20/21の年度トウモロコシ生産量は1,350万トンだった。輸出規制の影響が懸念されるものの、農家は収穫時に有利な価格を期待しているため、トウモロコシの作付面積と収穫面積は増加すると予測される。ロシアの分析機関の中には、21/22年度の収量を5.6トン/haと予測しているところもあるが、USDAは20/21年度と同程度の5.0トン/haと予測している。予測された面積と収量では、21/22年度のトウモロコシ生産量は1,430万トンになると予測される。

国内消費量

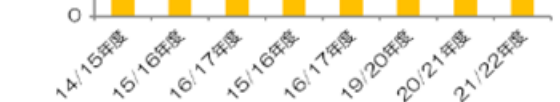
とうもろこしの消費量は、21/22年度には1,120万トンに増加すると予測している。USDAでは、パンデミックで落ち込んでいた畜産部門の需要が回復し、飼料需要が若干回復すると予測している。

トウモロコシの貿易。USDAは、21/22年度のトウモロコシ輸出量は300万トンと若干増加すると予測している。トルコは依然としてロシア産トウモロコシの主要輸入国である。

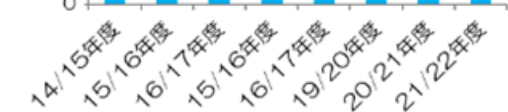
Tha



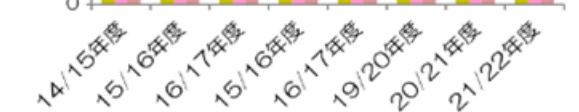
千トン



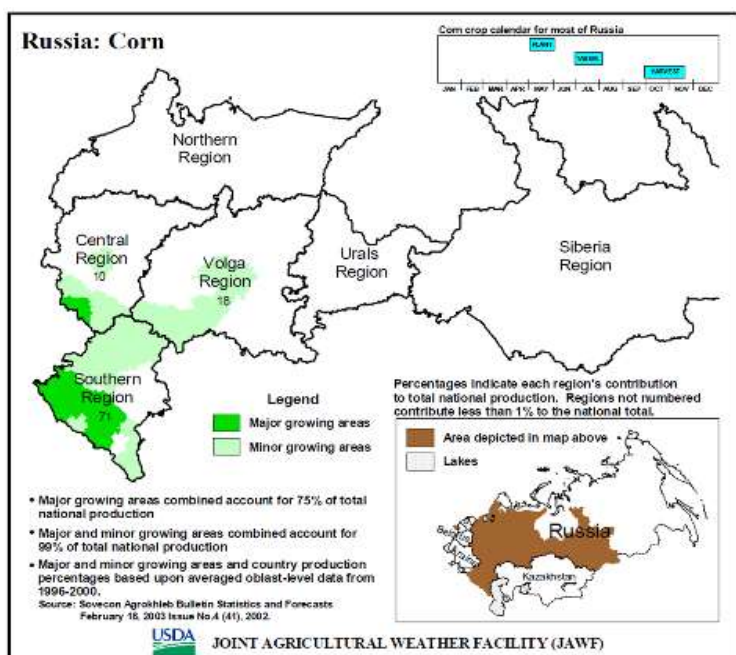
千トン



千トン



ロシアのトウモロコシ生産地



- ★ ロシアのトウモロコシの主な生産地は南西部で、ウクライナやベラルーシに接した地帯である。
- ★ 主な生産地は全体の75%を占めている。
- ★ 主要生産地とマイナーな生産地を合わせると全体の99%となる。



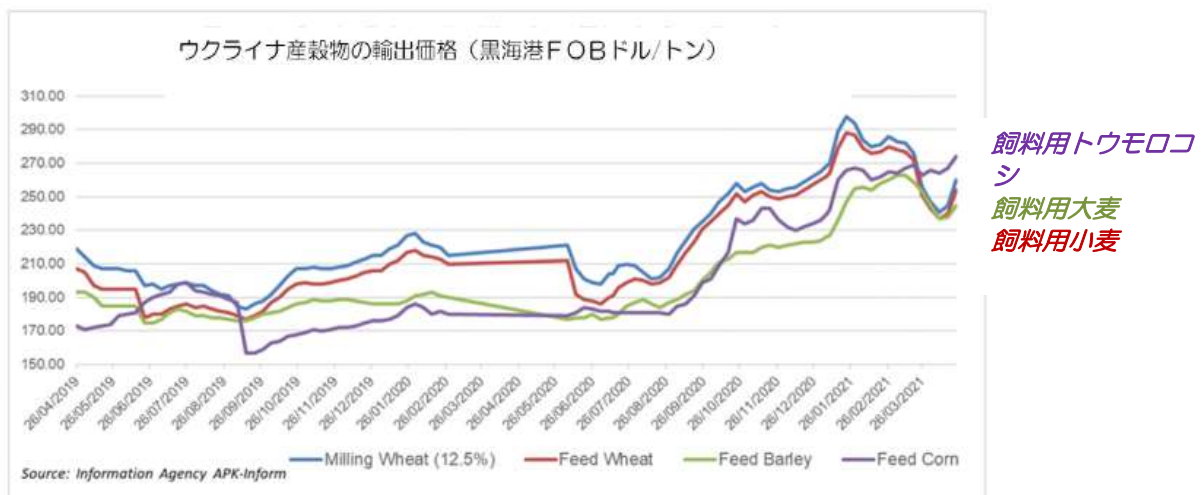
TOPICSs ウクライナのトウモロコシ by USDA Gain Report 4月15

2021年4月26日、ウクライナ国家統計局（SSSU）はウクライナの最終的な穀物生産量を発表した。

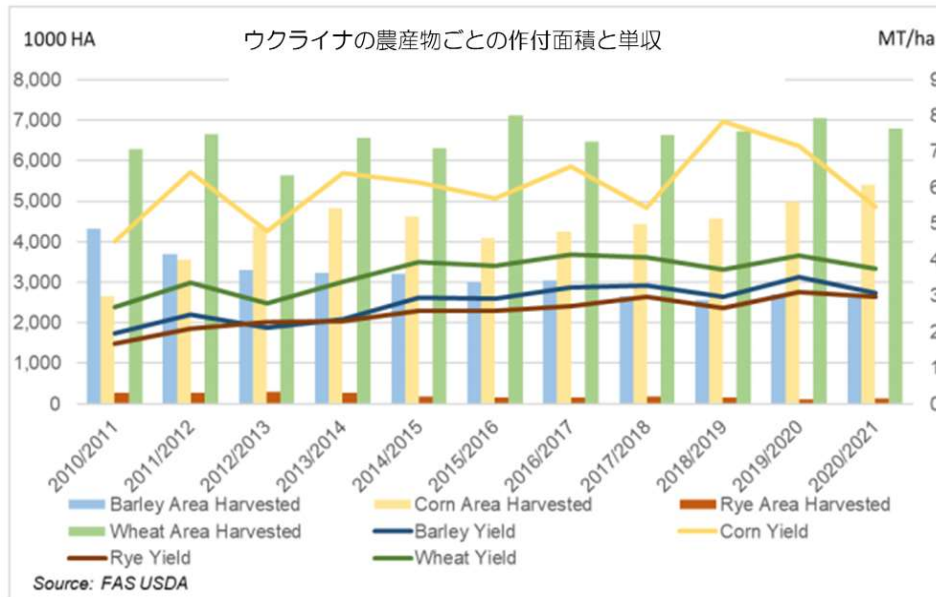
小麦は2,490万トン、トウモロコシはSSSUの前の報告に比べて+8%増の3,030万トン、大麦は▲2%減の760万トン、ライ麦は▲2%減の45万7,000トンとなっている。

経済開発・貿易・農業省（MEDTA）の報告によると、2021年4月26日時点の現地20/21年度（全作物の7月～6月）の輸出量は、小麦：14.8百万トン、大麦：4.1百万トン、トウモロコシ：18.3百万トン、ライ麦：.7千トンとなっている。

USDAの新しい20/21年度トウモロコシ輸出予測は、前の予測に比べて約▲6%減少している。これは、トウモロコシの価格が上昇を続け、現在は小麦や大麦の価格を上回っているという事実に基づいている（下記の「ウクライナの穀物輸出価格」のグラフを参照）。この傾向は、国際市場におけるウクライナ産トウモロコシの競争力を低下させ、20/21年度の輸出量が予想を下回る可能性がある。



千トン・千ヘクタール	18/19年度	前年比	19/20年度	前年比	前年比%	20/21年度	前年比	前年比%	20/21年度	前年比	前年比%
作付面積	4,565	+133	5,005	+440	+9.6%	5,395	+390	+7.8%	5,150	▲245	▲4.5%
期初在庫	1,567	+18	891	▲676	▲43.1%	1,546	+655	+73.5%	4,771	+3,225	+208.6%
生産	35,805	+11,691	35,855	+50	+0.1%	30,297	▲5,558	▲15.5%	33,471	+3,174	+10.5%
輸入	35	▲4	29	▲6	▲17.1%	28	▲1	▲3.4%	28	+0	+0.0%
供給合計	37,407	+11,705	36,775	▲632	▲1.7%	31,871	▲4,904	▲13.3%	38,274	+6,403	+20.1%
輸出	30,321	+12,285	28,929	▲1,392	▲4.6%	22,500	▲6,429	▲22.2%	29,000	+6,500	+28.9%
飼料用他需要	5,000	+0	5,100	+100	+2.0%	3,500	▲1,600	▲31.4%	4,800	+1,300	+37.1%
食料需要	1,200	▲100	1,200	+0	+0.0%	1,199	▲1	▲0.1%	1,299	+100	+8.3%
国内需要合計	6,200	▲100	6,300	+100	+1.6%	4,771	▲1,529	▲24.3%	6,000	+1,229	+25.8%
輸出+国内需要	37,407	+11,705	36,775	▲632	▲1.7%	31,871	▲4,904	▲13.3%	38,274	+6,403	+20.1%
期末在庫	886	▲480	1,546	+660	+74.5%	4,771	+3,225	+208.6%	3,274	▲1,497	▲31.4%
期末在庫率	2.4%	▲2.9%	4.2%	+1.8%	+77.5%	15.0%	+10.8%	+256.1%	8.6%	▲6.4%	▲42.9%
単収	7,8434	+2,4025	7,1638	▲0,6796	▲8.7%	5,6158	▲1,5480	▲21.6%	6,5000	+0,8842	+15.7%



棒

小麦作付面積

トウモロコシ作付面積

大麦作付面積

線

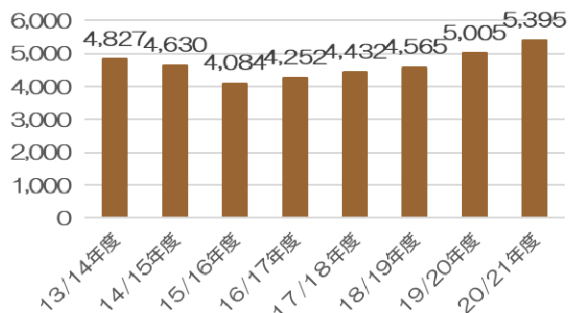
トウモロコシ単収

小麦単収

大麦単収

21/22年度の冬作物の収穫量をより正確に予測するために、USDAキエフでは2021年3月末時点の地表面と地下面の水分を分析した。一方で、2021年の表層および地下の水分レベルは、2020年3月のものよりも2021年4月～5月の降水量が不足していることを示唆している。その結果、冬作物の生育条件が悪化し、春作物の出穂条件が悪くなる可能性がある。21年の晩春と初夏の生育状況を正確に予測することは困難であるため、USDAは2021年の生育状況を5年間の平均を用いて予測した。

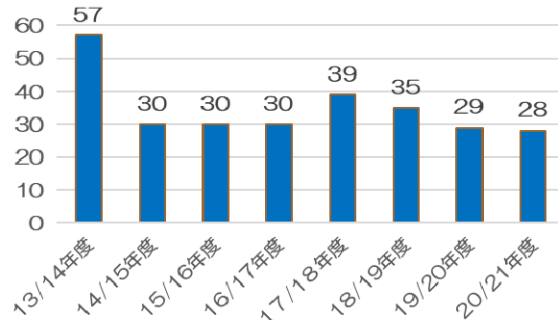
作付面積



生産



輸入

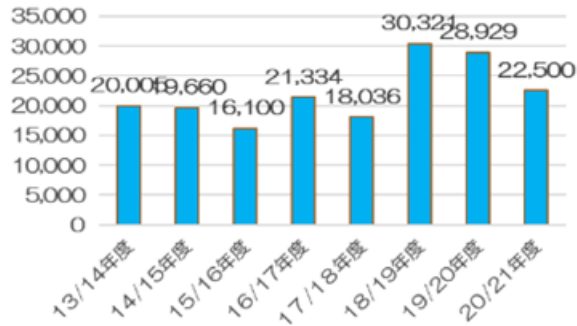


供給合計

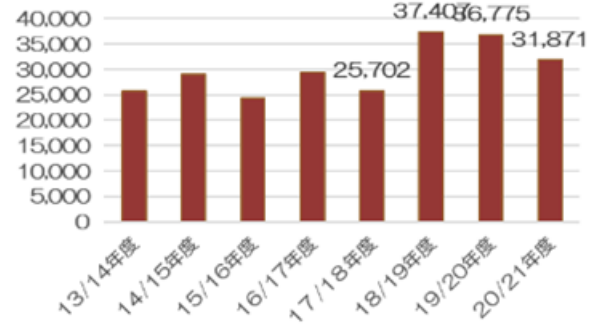




輸出



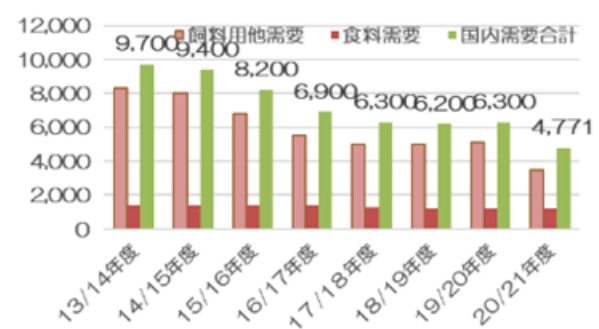
輸出+国内需要



輸出+国内需要



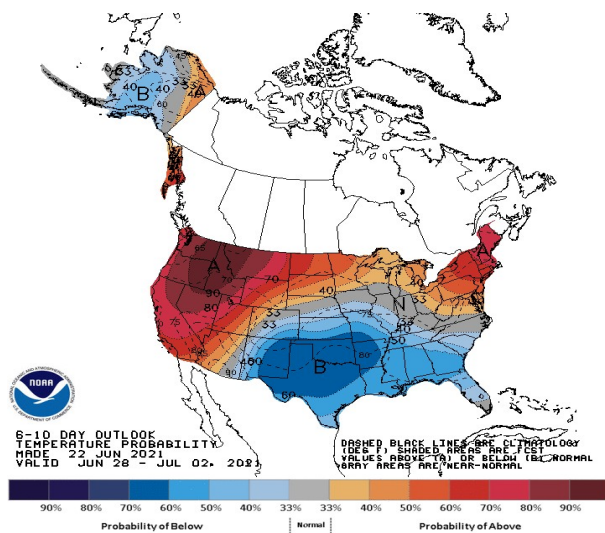
国内需要



米国の6～10日天気予報

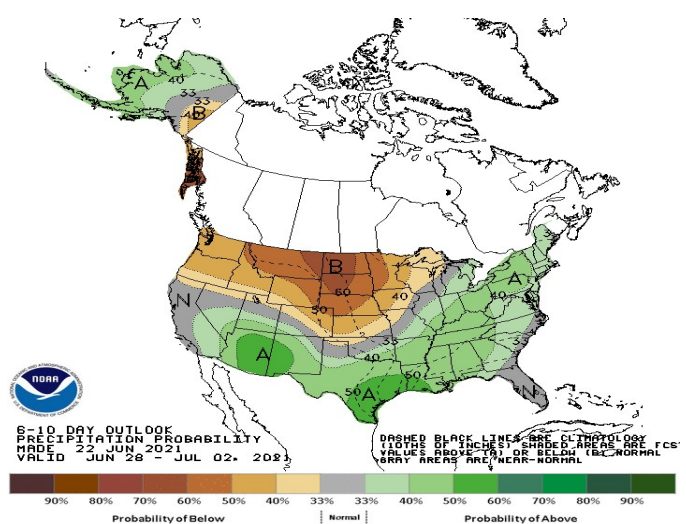
気温予報

気温の茶色から赤色の部分は今後6～10日で平年より気温が高くなる確率が高い地域を示す。



降水量予報

降水量の茶色の部分は今後6～10日で平年より降水量が少ないと予想される地域。





今後の予想

世界のトウモロコシの生産量は約11億9千万トンで、ウクライナは3,174万トン、ロシアは1,430万トンである。両国を併せても世界の4%弱の生産量でしかない。しかし、ウクライナのトウモロコシ輸出量は2,900万トン、ロシアは300万トンで、両国併せて3200万トンとなり、世界の輸出量1億9700万トンの16%を占め、米国、ブラジル、アルゼンチンに次いで4番手の輸出国となる。そのウクライナでは4月から5月かけての降水量が少なくなっている。それが今後の生育期の障害になるかどうかは未だわからないが、例年より出来は悪くなるものと思われる。

米国の7月4日前後の中西部の天気が高温乾燥になるかどうかを注目するとともに、ウクライナのトウモロコシ生産についても注意していきたい。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

発行元：



COMMODITY
INTELLIGENCE

株式会社コモディティ インテリジェンス 〒181-0012東京都三鷹市上連雀1-1-5三鷹ロイヤルハイツ706号
会社電話：0422-56-9819 携帯電話 090-1628-0583 メールアドレス：kondo@commi.cc